



「規則は守る、モラルを重視する」

代表取締役 山口 哲生

日本は30年間の長期にわたりデフレという低成長に苦しみ、その間果てしないコストダウンを繰り返し、結局新型コロナという予想もしなかった大ショックを経て、インフレに戻ったというところであろう。この間多くのものを失ったのではないかということを一番危惧している。飽くなきコストダウンは余裕のない現実を見せられることであるし、常に無駄を捜し続けることは少しのゆとりさえ奪うことになる。この結果、ルール(規則)を無視し、モラルを軽視する傾向が強くなった気がしてならない。例えば、借りたものをきちんと返さなかったり、壊れても届けなかったり、注意されなければ規則を無視し、時間を守らずそれを注意すべき立場にある者も面倒くさいのか、見て見ぬふりで済ましてしまう等々である。

しかしながら、企業は多くの人が生活の安定と安心を求めて集まった集団である以上、個人よりも高いレベルでのルールなりモラルが必要であるはずだ。

9月30日の経営方針でも、2025年、2026年は2027年以降の成長に向けて踊り場であると説明した。具体的な実行にあたっては様々な課題があるが、その根底には「規則は守る、モラルを重視する」ことなしには到底達成することは出来ないと考えています。

— 以上 —

“To abide by the rules and have good morals.”

Japan had suffered from its low economic growth caused by deflation for nearly 30 years. During that time, companies engaged in endless cost-cutting, and only after the unexpected shock, COVID-19, did the economy finally return to inflation.

What I am most concerned about is that we may have lost many things along the way; Relentless cost-reduction forced us to face a reality with no flexibility, and continuously searching for “waste” inevitably deprives us of even the smallest breathing room.

As a result, people have more tendency to ignore rules and make light of morals. For example, they fail to properly return borrowed items, do not report breakages, and disregard rules until they are told to follow them, or neglect to keep schedules. Even those who are supposed to enforce the rules sometimes look the other way to avoid any conflicts.

However, enterprises are organizations where many people gather seeking stability and security in their lives. Precisely for that reason, companies must uphold rules and moral standards at a higher level than that of individuals.

In the corporate policy announced on September 30, we stated that 2025 and 2026 will be a plateau period to prepare for growth from 2027 onward. There are various challenges in putting concrete actions into practice, but at the foundation of all of them lies the belief that we cannot achieve our goals without “abiding by the rules and having good morals.”

Tetsuo Yamaguchi
President, Kyowa Kikoh Co.,Ltd.



Vol.40 LNG燃料タンク

LNGとは「液化天然ガス(Liquefied Natural Gas)」のこと、天然ガスを-162℃まで冷却して液体化したものです。天然ガスは常温では气体ですが、液体化すると体積が600分の1まで小さくなるため、効率的な大量輸送や貯蔵が可能になります。燃焼時に大気汚染物質である硫黄酸化物(SO_x)がほとんど発生せず、CO₂排出量も抑えることで、クリーンなエネルギーとして注目されています。火力発電や都市ガスの燃料のほか、船舶燃料としての利用も世界的に広がっています。

この度、株式会社大島造船所殿より受注し、LNG燃料船の船舶燃料用タンクの胴体部分を製作しました。胴体部は巨大なリング状の形をしており、両端にドーム型の部品を繋ぎ合わせることで、直径12メートル、長さ24メートルの燃料タンクが完成します。タンクには十分な強度と韌性を持つ9%ニッケル鋼を使用しており、-162℃の超低温に耐えられる作りとなっています。弊社ではこれまでに燃料タンク3号機分を製作しており、現在4号機目の製作を計画中です。世界的に船舶の排出ガス規制が強化される中、クリーンなエネルギーで動くLNG燃料船の普及は拡大しています。引き続き、燃料船タンクの製作に積極的に取り組み、持続可能な社会に向けて貢献してまいります。



胴体部
ドーム状の部品を
両端に繋ぎ合わせる



KYOWA VIETNAM NEWS

10月までKyowa Vietnamに出向していた、カアンさんの現地レポートです。

2023年9月から2025年10月までの約2年間の駐在を終えて日本に戻りました。品質管理を中心に、製品の非破壊検査、測定、出荷前検査などを担当し、必要に応じて生産管理の業務にも携わっていました。それに加えて、生産能力を向上させるために、社員の方々の意見を取り入れながら、問題を少しづつ解決していきました。その結果、製品の精度や生産スピードが向上し、言語の違いによる問題も少なくなりました。写真は、初めて新しい縦旋盤を使って珍しい形状のフランジを加工したときの様子です。新しい課題に挑戦し続けることで、多くの新しい知識を身に付けることができました。

短い期間の出向でしたが、たくさんの良い思い出を作ることができました。写真はキョーワベトナムで行った誕生日パーティーです。社員の皆さんのが優しく、仕事や経験について熱心に教えてくださいました。また機会があれば、ぜひキョーワベトナムへ出向したいと思います。学んだ知識をこれから仕事に生かしていきます。



第35回家族会

—令和7年11月3日(月)—



今年で35回目となる家族会を開催いたしました。
昨年に引き続き、今年も参加型レクリエーションの数々で盛り上りました！

開会の前に内定者や従業員の
ご家族へ工場をご案内。



山口社長より開会の
ご挨拶と乾杯の音頭。



ビンゴ大会では当選者が出たび
に会場は大盛り上がりでした！



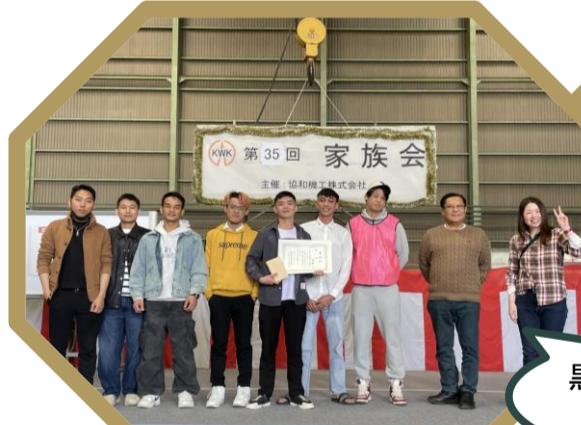
毎年恒例のもちつきが行われました。
つきたてのお餅が大人気でした！



風船割りゲーム



ビーチボール運びルー



黒瀬さんチームが
優勝しました！



冬至について

冬至(とうじ)とは、一年のうち昼が最も短く、夜が最も長い日のことです。

夏至の日照時間と比べると、長崎県では約4時間20分もの差があります。

世界各国では、冬至を「太陽の誕生日」と考えるところが多く、その後のクリスマスやお正月などの行事につながるきっかけと位置付けているようです。反対に日本では、昼間の時間が短くなることを「太陽の力が衰える」ととらえ、その回復を願った行事が各地で行われています。冬至は、これから迎える厳しい冬の寒さに向けて、病を未然に防ぎ、楽しく冬を乗り切れる体を作る日なのです。

今年の冬至は
12月22日！

冬至は「柚子湯に入り、かぼちゃを食べるといい」という習わしがあります。柚子湯は無病息災の願い、またかぼちゃは長期保存が効き、冬でも食べられる数少ない野菜のひとつで、かぼちゃを味わって栄養をつけようという先人の知恵なのです。
また、「ん」が付く食べ物を食べることで、「運」を呼び込むとされています。



KYOWA NEWS — 2025.9月～2025.11月 —

大村工業高校企業見学(2025.9.25)



大村工業高校の機械システム科2年生40名が企業見学に来社されました。社員との交流会では、仕事ややりがいなどの話に皆さん熱心に耳を傾けていました。

定年退職(2025.9.30)



協和機工にて勤務された松永康宏氏が、9月末をもって定年退職を迎えられました。尚、松永氏は10月1日付で協和機工(株)に再就職されました。

佐世保工業高校インターンシップ(2025.10.14-16)



佐世保工業高校の機械科より2名が、3日間のインターンシップに参加されました。CADや加工・溶接など様々な部署での業務を体験していただき、真剣に取り組んでいらっしゃいました。

ベトナム人技能実習生第39期生入社 (2025.10.17)



新たに10名の技能実習生が協和機工に入社しました。これから3年間の実習を通して、技能だけでなく日本のものづくりや文化など様々なことを学んでもらいたいです。

技能実習1期生が活躍しています！



当社が技能実習生の受け入れを開始したのは2006年。第1期生は2009年に実習を修了し、ベトナムへ帰国しましたが、それから16年が経った現在も、協和機工グループの主力として活躍しています！

▶人事通信

—令和7年12月1日現在—



合格おめでとうございます！ (敬称略)

◆2025/8/26付 交付

・クレーンデリック運転士(クレーン限定)

熊本 光希 (工作部 造機課造機4係)

TRAN TRUNG TIN (工作部 造機課造機3係 班長)

◆2025/10/1付 交付

・溶剤除去性浸透探傷検査(PD2)

中村 七海 (総合品質管理部 生産管理課)



正社員登用

(敬称略)

◆2025/10/15付

・工作部 造機課造機管理 成富 弘人

